

2 日目 高学年3組 総合的な学習の時間（虹の輪タイム）学習指導案

平成28年2月4日（木）公開授業Ⅰ

平成28年2月5日（金）公開授業Ⅱ

会場 3階-①

授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校
教諭 越村 尚貴

1 単元名 つくろう われらの未来宣言 — 未来につなげたい新潟の魅力 —

2 本単元の価値

本単元の目標は、次の通りである。

新潟市を盛り上げるための活動に取り組んでいる木山さんと肥田野さんと同じ問題意識で活動することで、活動に取り組む原動力に共感し自分らしい生き方を考えることができる。

学習対象及び学習事項は、次の通りである。

【学習対象】

- ・新潟市を盛り上げようと活動している木山さんと肥田野さん
- ・木山さんと肥田野さんが取り組んでいる志民委員会の活動（What's NIIGATAの巨大モニュメント）

【学習事項】

- ・活動に取り組む木山さんと肥田野さんの思いや原動力（人の喜びが自分の喜びにつながること）
- ・新潟市の魅力

本単元は新潟市をもっと盛り上げようと活動している木山さんと肥田野さんを学習対象とする。木山さんと肥田野さんは本業の他に、新潟市民の有志で構成される「志民委員会」の活動に取り組んでいる。志民委員会とは「新潟市民の一人ひとりが、新潟市の未来を自らの手で魅力と活力あるものにする」という目的で2013年に設立された組織である。志民委員会の人たちは、2019年の新潟市開港150周年を盛り上げるために様々な活動に取り組んでいる。

本単元で学習対象としたWhat's NIIGATAの巨大モニュメントの設置も志民委員会の活動の一つである。このモニュメントは「What's NIIGATA=新潟市って何だろう？」と見ている人に新潟の魅力を問い掛けている。一人ひとりが新潟市の魅力を考え、魅力をつくる担い手になってほしいという願いが、このモニュメントには込められている。今現在、新潟市内にこのモニュメントは2カ所（新潟駅南の広場と新潟市民芸術文化会館の前）設置されている。子どもの多くがこのモニュメントを見たことがある。しかし、なぜこのようなモニュメントが設置されているのか、その目的までは知らない。

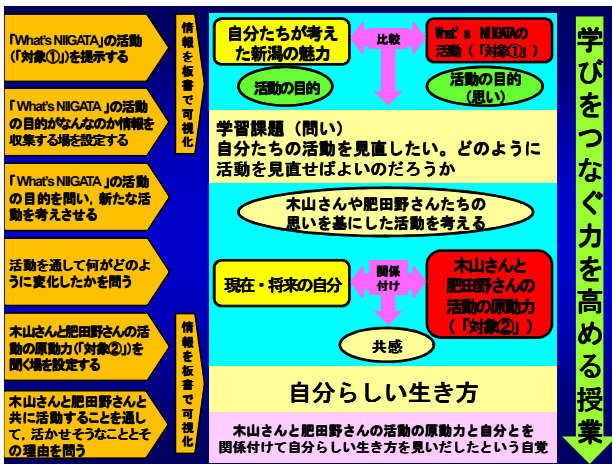
本単元で子どもが学ぶのは、What's NIIGATAの巨大モニュメントの設置など、志民委員会の活動に取り組む木山さんと肥田野さんの思いや原動力が何かということである。本業をしながら新潟市を盛り上げる活動に取り組むことができるのは、核となる思いや原動力があるからである。

子どもは、新潟市の魅力を伝えたいという同じ問題意識をもって活動していくことで、木山さんと肥田野さんの思いや原動力に共感することができる。思いや原動力に共感した子どもは、現在や将来の自分の生き方と共感したことを結び付けて考えることができるようになる。これが本単元の価値である。



3 本単元で目指す姿

「木山さんと肥田野さんは人の喜びが自分の喜びにつながることを原動力として、新潟市を盛り上げる活動に取り組んでいた。私も委員会の活動で全校の人のために活動して喜んでほしい」等、**木山さんと肥田野さんの活動の原動力に共感し、自分に結び付けて考える子ども**を目指す。



(1) 「中核的な学習内容」

自分らしい生き方（地域社会にかかわる木山さんと肥田野さんの活動の原動力を自分に結び付けて見いだした考え）

(2) 「学びをつなぐ力」

- ①比較するすべを用いて、地域社会にかかわる木山さんと肥田野さんの活動と自分の活動との違いに気付き、活動の目的についての問いをもつ力
- ②関係付けるすべを用いて、地域社会にかかわる木山さんと肥田野さんと、現在や将来の自分を結び付けて自分らしい生き方を見いだす力

(3) 「学びをつなぐ力」の有用性の自覚

木山さんと肥田野さんと、自分を関係付けて考えることで、二人の活動の原動力に共感できたり活動をよりよく見直すことができたりするという自覚

4 指導の構想

単元の導入は、2014年3月に開通した北陸新幹線についての資料を提示し、新潟市にどのような影響があるのかを考えさせる。子どもは北陸新幹線が新潟市を通過していないことや金沢市の観光客が増えていることから、新潟市の観光客が減っているのではないかと予想する。その後、志民委員会の木山さんをゲストティーチャーに招き、北陸新幹線の影響や、新潟市が2019年に開港150周年を迎えることを話していただく。木山さんからもっと新潟市を盛り上げなければいけないという話を聞いた子どもは、自分たちが新潟市の魅力を伝えていきたいと課題を設定する。

新潟市の魅力を発信していきたいと考えた子どもは、資料から必要な情報を収集し、PRしたい新潟市の魅力を考える。新潟市の魅力を発信できるようになったところで志民委員会の肥田野さんをゲストティーチャーに招き、子どもの発表を聞いてもらう。発表について肥田野さんから肯定的な評価をしていただく。評価を受けた子どもは、自分たちの活動に満足する。しかし、このときの子どもが捉えている新潟市の魅力は「もの」や「こと」など限定された魅力である。そのような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

肥田野さんら志民委員会の人たちの思いが顕著に表れているWhat's NIIGATAの巨大モニュメントの活動（「対象①」）を提示し、その目的を問うた後、肥田野さんたちの活動と自分たちが考えたPR活動との違いを考えさせる。

活動の目的について問いをもたせる働き掛けである。新潟市の魅力を限定的に捉えている子どもにWhat's NIIGATAの巨大モニュメントの活動（「対象①」）を写真で提示する。この活動は子どもが考えた活動の目的とは大きく異なっており、肥田野さんら志民委員会の人たちが考えている新潟市を盛り上げたいという思いが具体化された活動である。子どものPR活動は新潟市の魅力をもっと多くの人に知ってもらうことを目的としていたが、巨大モニュメントはWhat's NIIGATA=新潟市って何だろう？と見ている人自身に魅力を考えてもらうことを目的としている。

巨大モニュメントの写真を見た子どもは「見たことがある」「新潟駅の近くにある」等、知っている情報を話す。そのような子どもに巨大モニュメントを設置した目的は何かを問う。子どもはモニュメントの言葉の意味や設置されている場所などの情報から、活動の目的を予想する。このとき、子どもが予想した巨大モニュメントの活動の目的を、肥田野さんに発表した新潟市の魅力の横に板書していく。そうすることで子どもは比較するすべを用いて、自分たちの活動と肥田野さんたちの活動との違いに気付き「自分たちの活動と肥田野さんたちの活動は目的が違う。自分たちの活動をよりよくするために肥田野さんたちがなぜWhat's NIIGATAの巨大モニュメントの活動に取り組んだのかを知りたい」と活動の目的について問いをもつ。

働き掛け2

What's NIIGATAの巨大モニュメントの活動の目的が何なのかを調査する活動を設定する。

問いを解決するための情報収集を促す働き掛けである。What's NIIGATAの巨大モニュメントの活動の目的を予想した子どもは、実際にモニュメントが設置されている場所に行って情報を集め

たいと考える。ここで新潟駅南口の広場と新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）前に設置されているモニュメントを見学に行き、調査する活動を設定する。子どもは実際にWhat's NIIGATAの巨大モニュメントに触れたり、書かれた情報を収集したりして、肥田野さんたちがなぜ巨大モニュメントの活動に取り組んだのかを考える。

働き掛け3

What's NIIGATAの巨大モニュメントを見に行き分かったことを問い、新たな活動を考えさせる。

収集した情報を分析し、活動の見直しを促す働き掛けである。見学で情報を収集してきた子どもに、巨大モニュメントを見に行って分かったことを問う。子どもは収集した情報を出し合い、情報同士を関係付けて、巨大モニュメントの活動の目的が新潟市民への問い掛けであることを予想する。このように予想した子どもに、自分たちが考えた活動を肥田野さんたちの活動を基にして見直すことができないかと問う。子どもは関係付けるすべを用いて、自分たちがPRした新潟市の魅力を新潟市民にも知ってもらうにはどうしたらよいか考える。そして肥田野さんたちの活動を参考にして、魅力を伝えるばかりではなく考えてもらうように問い掛けたらよいのではないかと新たな活動を考える。

働き掛け4

活動を通して何がどのように変化したかを問う。

活動の価値に気付かせる働き掛けである。新潟市民に魅力を考えてもらうという目的で活動を見直した子どもに、活動を通して何がどのように変化したかを問う。子どもは、関係付けるすべを用いてこれまでの活動を振り返り、活動に取り組むことで自分の新潟市の魅力についての考え方が変化していることを自覚する。最初は木山さんから促された活動であったが、木山さんや肥田野さんと同じ問題意識をもち、共に解決に取り組むことで新潟市の魅力を伝えるだけでなく、新潟市民に問い掛け見つけてほしいという考え方に変わってきたことに気付く。

働き掛け5（1日目）

職業ではないにもかかわらず、木山さんと肥田野さんがWhat's NIIGATAの巨大モニュメントの活動に取り組む原動力（「対象②」）を聞く場を設定し、気付いたことを問う。

働き掛け4までで、木山さんと肥田野さんと同じ問題意識で活動することで志民委員会の人たちの活動の内容、目的、それにかかる思いを実感してきた子どもに、**木山さんと肥田野さんが活動に取り組む原動力（「対象②」）**を聞く場を設定する。このとき、ただ一方的に話を聞かせるのではなく、子どもから二人に聞きたいことを質問させる。二人からは質問に答えるだけでなく、子どもに問い返しの質問をしてもらう。相互にやり取りをした後で、気付いたことを問う。子どもは関係付けるすべを用いて、木山さんと肥田野さんの話と自分の体験とを結び付けて、活動に取り組む原動力に共感する。

働き掛け6（2日目）

木山さんと肥田野さんと共に活動することを通して、活かせそうなことを問う。

共感した原動力を現在や将来の自分に結び付けて考えさせるための働き掛けである。木山さんと肥田野さんが活動に取り組む原動力に共感した子どもに、なぜ共感したのかその理由を問う。子どもは共感した理由を考えることで、自分に結び付けたい考え方を自覚する。そのような子どもに木山さんと肥田野さんの話を聞いて共感したことは、これからどのような場面で活かせるかを問う。子どもは関係付けるすべを用いて、共感したことと今の自分やこれからの自分とを結び付けて自分らしい生き方を考えていく。これが、私の目指す**木山さんと肥田野さんの活動の原動力に共感し、自分に結び付けて考える子ども**である。

また、「学びをつなぐ力」の有用性を自覚させるために、体験活動を行うごとに振り返りをワークシート等に蓄積させていく。その際、「何を学んだのか、それはどのように考えたからなのか」という視点を与える。内容と思考の自覚を促す継続的な振り返りにより、子どもは、木山さんと肥田野さんと自分を関係付けて考えることでよりよく課題解決ができたことや、自分が変容できたことを自覚する。

5 指導計画 全20時間（60Q）

別紙「単元カード」参照

6 本時の構想<第2日目> 20/20時間(45分授業)

(1) ねらい

関係付けるすべを用いて、木山さんと肥田野さんの話を聞いて気付いたことと、これからの自分に活かしていきたいこととを結び付けることで、自分らしい生き方を考えることができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆つなぐ力	教師の働き掛け
<p>1 前時のワークシートの記述から、自分が共感したことを付箋に書く</p> <ul style="list-style-type: none"> 私は、自分の仕事だけを見ていると他のことはできないということにすごく共感しました。 一人だと分からないことも、たくさんの人と共有することで自分が成長できるということです。 自分自身に嘘をつかないということはとても大切だと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○説明「昨日は、二人に質問して気付いたことをワークシートの中心にまとめました」 ○発問「その中であなたが共感したことはありますか」 ○指示「共感したことの中から一つ選んで付箋に書いてください」 ※補助「気付いたことの中に共感したことがなかった人は、昨日聞いた話の中で共感したことでも構いません」
<p>2 グループで共感した理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 僕はたくさんの人が集まると、自分が分からなかったことも新たに気付くことがあるという話に共感しました。 なぜそのことに共感したの？ 算数の授業とかで、僕も友達の考えを聞いて新しく気付くことがあったから、似ているなと思いました。 私はやめたくなくても最後まで志や目標を忘れないということに共感しました。なぜなら、私も剣道をやっていたまに練習を休みたくなるけど、やっぱりやらなくちゃと練習に行くときがあるからです。 <p style="text-align: right;">☆つなぐ力②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○指示「4人グループで、自分が共感したことを付箋を使ってまとめましょう」 ○発問「なぜそのことに共感したのですか」 ○指示「その理由をグループで聞き合ひましょう」 ※木山さんと肥田野さんから、適宜グループを回って話し合いの様子を見てもらう。 ○指示「どんなことに共感したのか発表してください」
<p>3 木山さんと肥田野さんとかかわりから学んだことを、これからどのような場面で活かせるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 私は、自分とは違う立場の人とかかわることが実は自分の成長につながることに共感しました。だから、これからは委員会などで自分から他の学年の人に声を掛けて活動していきたいです。 僕は、強い気持ちをもつことが大切だと思います。木山さんも肥田野さんも志民委員会の活動で大変なときがあるけど、成長するチャンスだと思ってがんばっていました。僕も勉強とかが面倒くさくなる時があるけど、最後までやりきるようがんばりたいです。 <p style="text-align: right;">☆つなぐ力②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○発問「共感したことは、これからどのような場面で活かしていけそうですか」 【働き掛け6】 ○指示「グループで活かしていけそうなことを発表しましょう。」 ※このとき、4グループを2グループに編制し、木山さんと肥田野さんに聞いてもらうようにする。
<p>4 木山さんと肥田野さんの話を聞いた後で、学習の振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 木山さんと肥田野さんはすごい人だから、自分は真似できないと思っていたけど、いろいろな人と協力するとか、自分自身に嘘をつかないでがんばるということは自分たちでも取り組めることだと思いました。 木山さんと肥田野さんから褒めてもらえて嬉しかったです。新潟市の魅力は人なのかもしれないと感じました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○説明「みなさんの今日の学習の様子を見てどんなことを感じられたか、木山さんと肥田野さんに聞きます」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>木山さんと肥田野さんのお話 ※子どもの様子から感じたことを率直に話してもらおう。 ※自分らしい生き方を見つめ直した子どもの発言を賞賛してもらおう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○指示「学習の振り返りを書きましょう」

(3) 評価

○ 木山さんと肥田野さんから学んだことを現在や将来の自分に結び付けて自分らしい生き方を考えることができたかを、話し合いの様子と振り返りの記述から評価する。

